

[BLPカンファレンス2020]

BLPオンライン授業による教育効果

2020.08.21 Fri.

田中 聡

立教大学経営学部 助教

BL2コースリーダー

データアナリティクスラボ

本資料を引用・転載する際には、必ず下記のように出典を明記していただくようお願いいたします。

田中 聡（2020）「BLPオンライン授業による教育効果」立教経営BLPカンファレンス2020講演資料

データアナリティクスラボのご紹介

- 1** **学部内**に設置されたIR(Institutional Research)組織
BLP授業改善に加え、学部運営（入試・カリキュラム改革）にも示唆を提供
- 2** 授業責任者・事務局・データ分析担当の**三位一体チーム**
現場の課題に即して、スムーズにデータ収集できる体制
- 3** **学生スタッフ（DA：データアシスタント）**による分析
学生自ら授業改善に向けた課題を考え、仮説を立てデータ分析で検証する

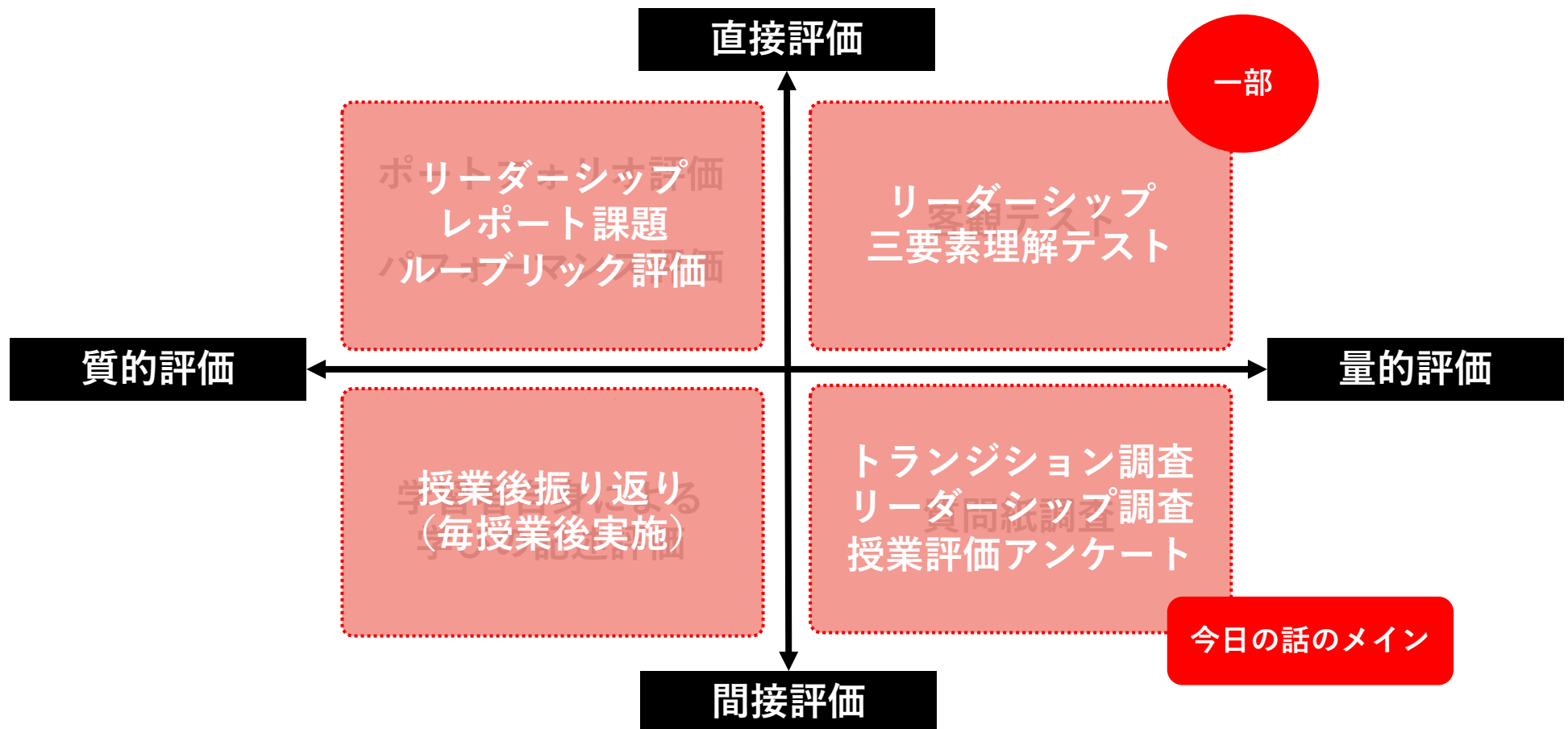
公益財団法人 電通育英会様のご支援によって運営されています

私からの話題提供

オンライン授業の教育効果

BLPの教育効果・学習成果を評価する軸

立教経営BLPでは、
多様な評価手法を採用し、学生の学習成果を多面的に測定



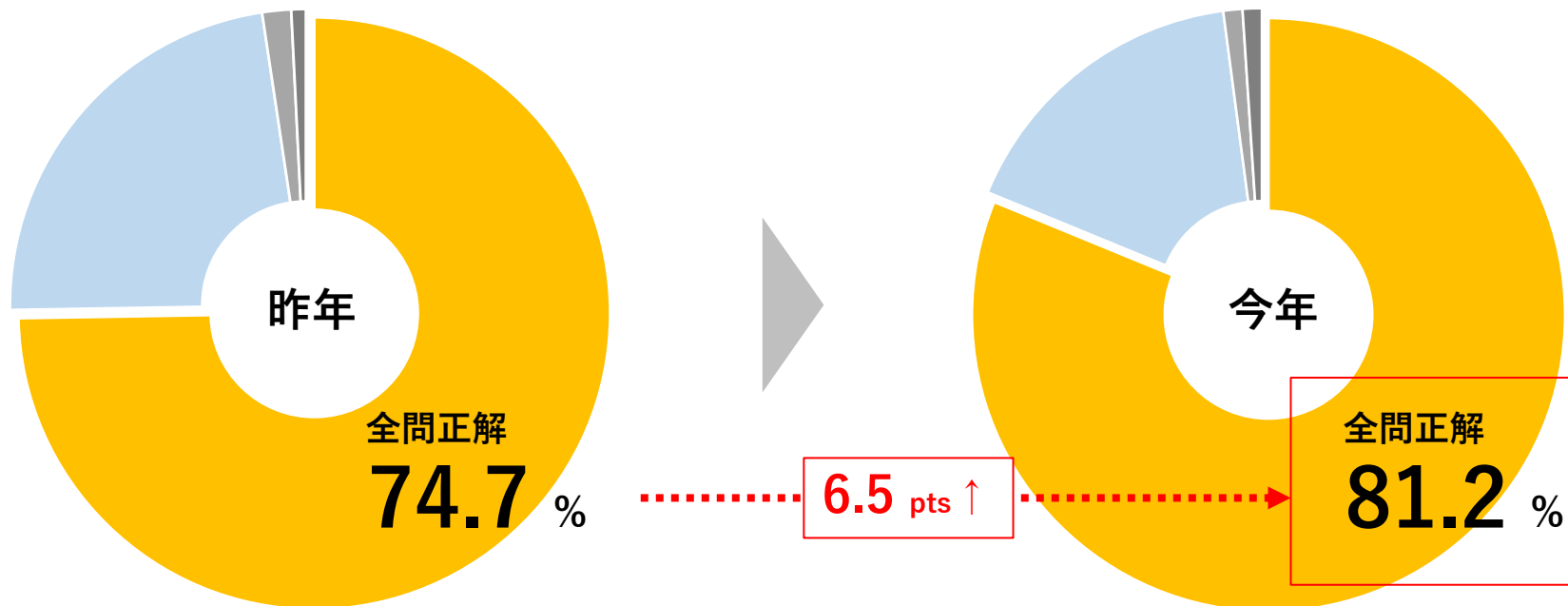
“オンライン”による教育効果

-対面で行われた昨年データとの比較（BL0を事例に）-

リーダーシップ3要素に対する理解度は？

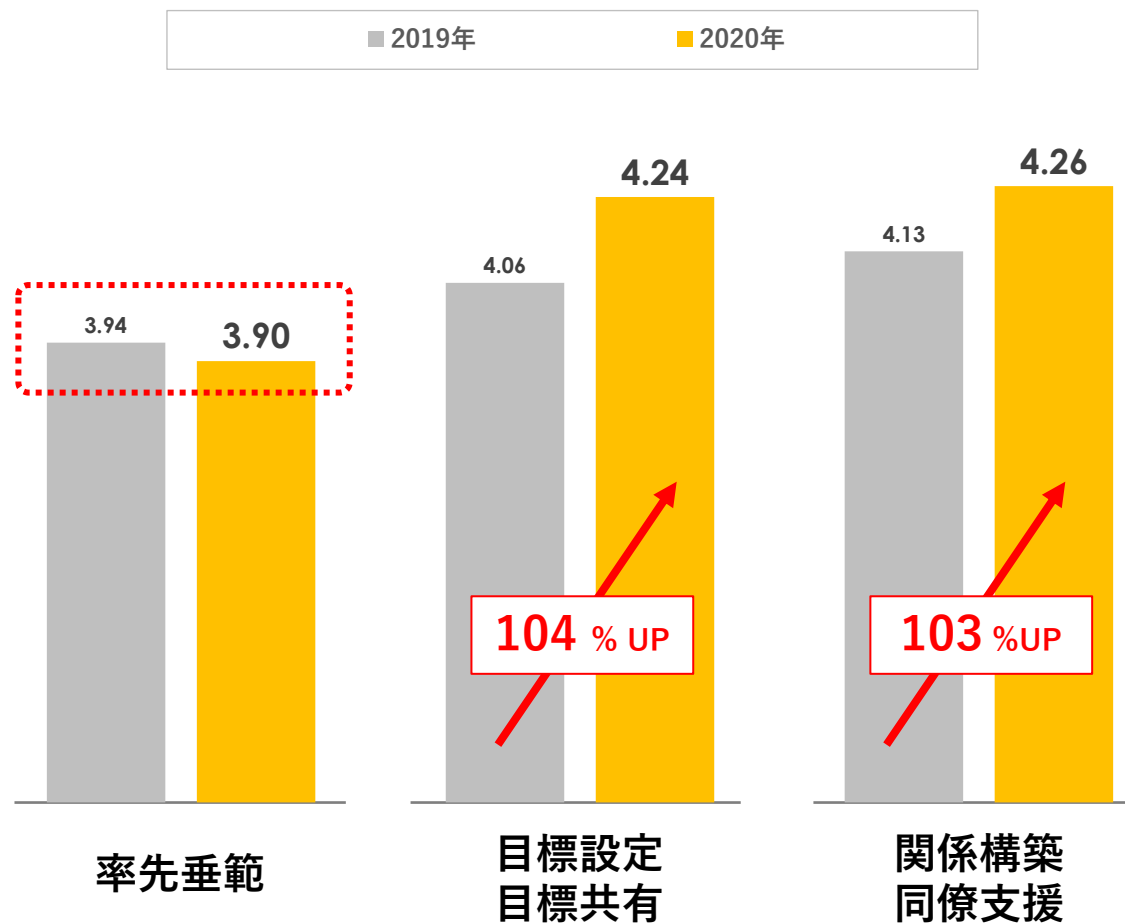
対面授業で行った昨年よりも、
リーダーシップ3要素に対する理解度は高い（直接評価より）

リーダーシップ三要素とは何かを記述しなさい（自由記述形式）



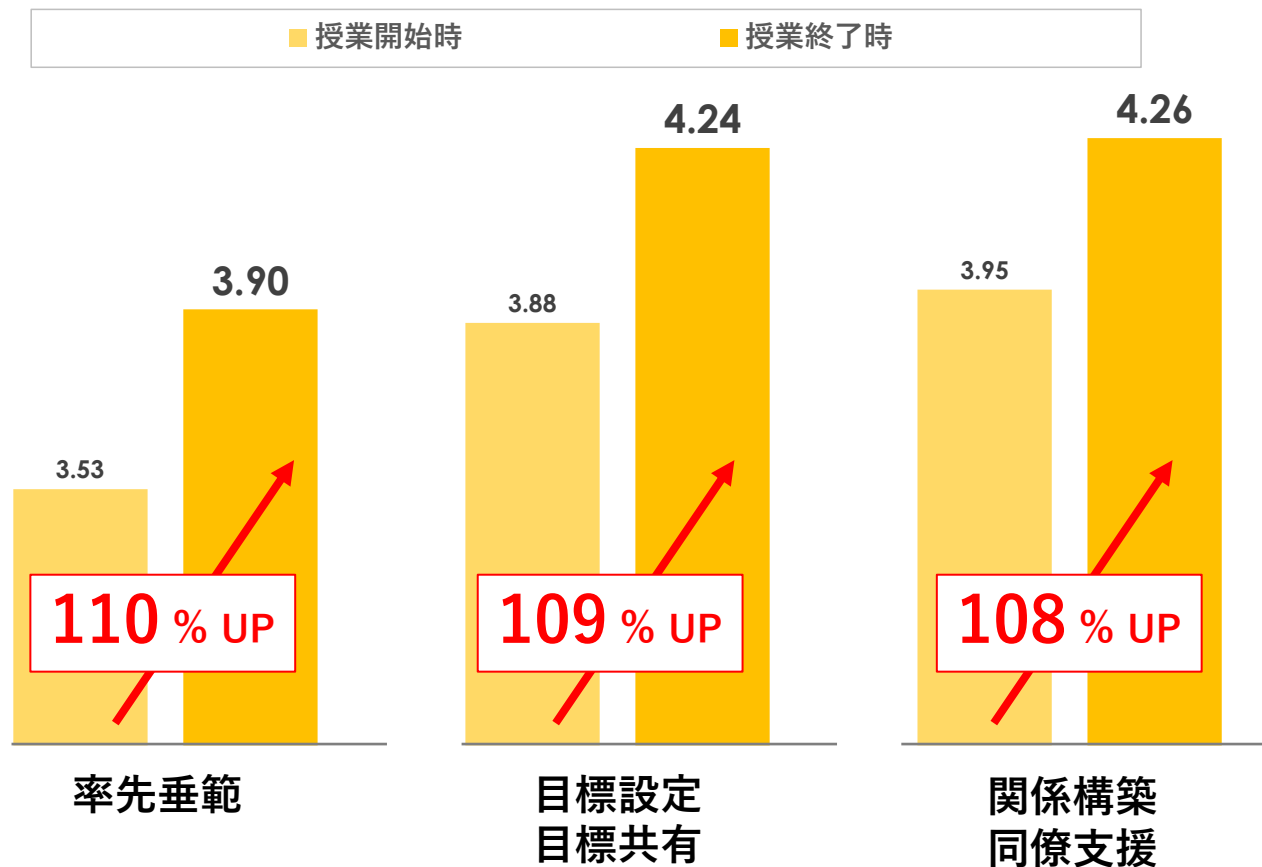
オンライン上でもリーダーシップ行動は実践できた？

「目標設定・共有」「関係構築・同僚支援」の実践は昨年を大きく上回る
「率先垂範」に関する実践は昨年とほぼ同水準（オンラインならではの難しさ）



[補足] 授業開始時との比較では、いずれも大幅アップ！

授業開始時と比べて、リーダーシップ行動を
「実践している割合」はいずれも**大幅アップ**！



「リーダーシップ行動」について詳しく知りたい方はこの論文を！

論文

日本教育工学会論文誌 43(2), x-x, 2019

大学の経験学習型リーダーシップ教育における学生の リーダーシップ行動尺度の開発と信頼性および妥当性の検討[†]

木村 充^{*1}・館野泰一^{*1}・松井彩子^{*2}・中原 淳^{*1}

立教大学経営学部^{*1}・一橋大学大学院経営管理研究科^{*2}

本研究は、大学の経験学習型リーダーシップ教育における学生のリーダーシップ行動尺度を開発し、尺度の信頼性・妥当性を検討することを目的とする。経験学習型リーダーシップ教育とは、経験学習を理論的基盤として行われるリーダーシップ教育のことを指す。先行研究や予備調査に基づいて54の項目案を作成し、リーダーシップ教育を国内で大規模に実施しているA大学の学生156名（Time 1）および110名（Time 2）を対象に調査を実施した。因子分析の結果、リーダーシップ行動は、「率先垂範」「挑戦」「目標共有」「目標管理」「成果志向支援」「対人志向支援」の6因子によって構成された。さらに、項目を精選し、30項目からなる尺度を作成した。開発した尺度の信頼性及び妥当性の検討を行った結果、概ね良好な値が得られた。

キーワード：リーダーシップ行動尺度、経験学習型リーダーシップ教育、大学教育、教育評価

1. はじめに

1.1. 社会的背景

近年、大学教育においてリーダーシップ教育の重要性が高まっており、リーダーシップ教育の実践をカリキュラムに組み込む大学が増加の一途をたどっている。例えば、10年以上前から学部単位で大規模にリーダーシップ教育を導入している立教大学をはじめとして、近年では、大阪大学、名古屋大学、一橋大学、愛媛大学などの国立大学、さらには早稲田大学、國學院大学、実践女子大学、共立女子大学などの私立大学においても、リーダーシップ教育の実践が広がりつつある（館

野 2018）。いる最大の要因は、産業界からの要請だろう。近年、経営環境のグローバル化やそれに伴う競争の激化から企業を取り巻く環境は大きく変化しており、これまで以上にリーダーシップ行動を育成することの重要性が高まっている（館野 2018）。

産業界からの大学に対するリーダーシップ教育の要請の強まりは、政府が主導する大学教育の達成度・評価の議論においても明示的である。大学教育では、社会の変化を受けて、従来の知識偏重の学力観が見直され、専門的な知識のみならず、より汎用的な資質・能力の育成が重視されるようになり、教育方法の改善や新たな教育方法の提案が盛んに行われている（溝上、

なぜBLPはオンライン授業でも
一定の教育効果を上げられたのか？

まずは「教室内」の取り組みについて

教室内の取り組み

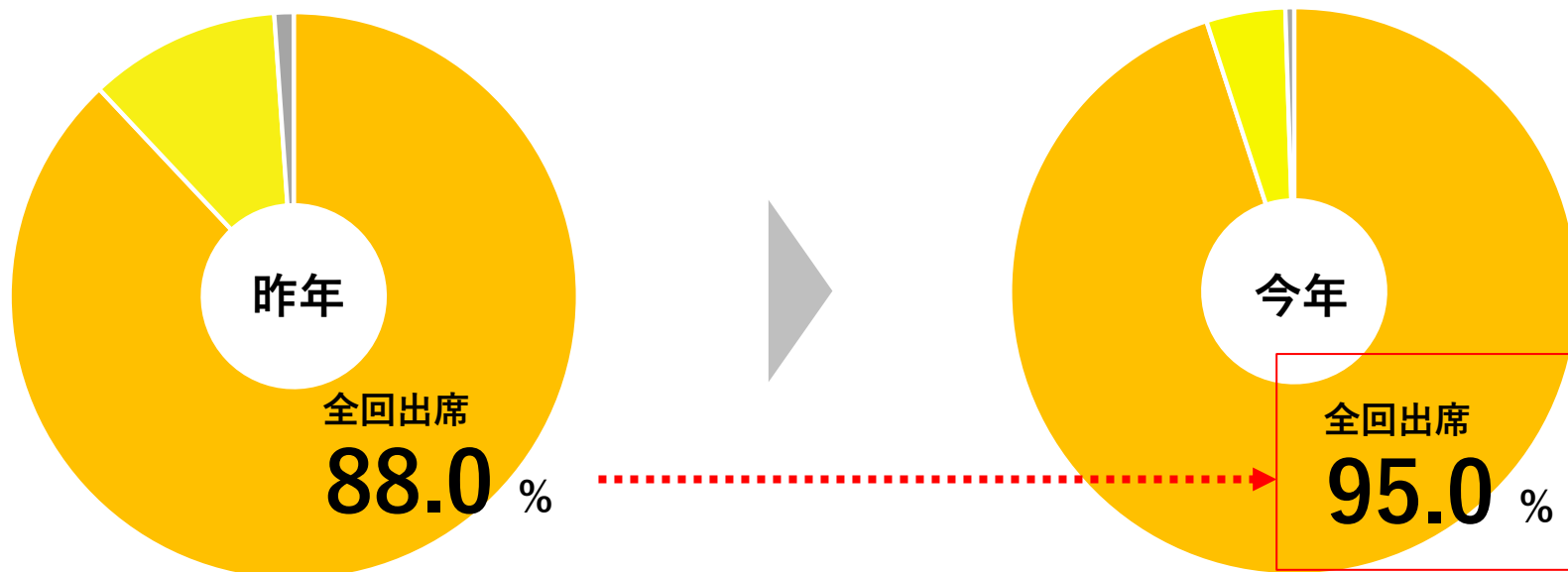
教室外の取り組み

そもそも…授業への出席率はどうだったのか？

対面授業時と比べて、授業の出席率は**大幅にアップ**！

(BLPでは授業参加率をとても重視しています)

授業出席割合



参加はしても、授業への集中力は低下するのでは？

受講生の授業に対する積極的な関わりは対面授業時とほぼ同水準
対面と比べて、**オンラインの方がメモ・ノートが取りやすい環境！？**

授業に対する関わり方（「あてはまる」「ややあてはまる」回答の割合）

	2019	2020	差（2020-2019）
授業時間に積極的に参加した	92.0%	93.4%	1.4%
学んだことを整理したり書き留めたりするために メモやノートを積極的にとった	63.7%	75.1%	11.4%
この授業での学びを発展させるために、 必要な情報や知識を積極的に調べた	78.7%	81.9%	3.2%

オンライン授業＝「クラスの雰囲気がいマイチ説」は本当か？

「気軽なコミュニケーション」は対面時に比べて**ダウン**するも、
「クラスの雰囲気」への評価は昨年に比べて**アップ**！なぜか…？

クラスでの居場所感

	2019	2020	差（2020-2019）	
アップ	クラスには、まじめに学習に取り組む雰囲気がある	4.42	4.63	0.21
	クラスで活動するのは楽しい	4.42	4.59	0.17
	クラスに一体感を感じる	4.05	4.21	0.16
ダウン	私には、クラスに気軽におしゃべりできる人がいる	4.70	4.54	-0.17
	クラスの人たちには、 自分からコミュニケーションをとっている	4.20	4.01	-0.19

授業運営陣（教員・SA）から受講生に積極的に関わる工夫

対面授業で行った昨年との比較で特にスコアが向上したのは、
「教員によるクラス雰囲気づくり」「SAによるフィードバック」

授業運営陣に対する評価（「あてはまる」「ややあてはまる」回答の割合）

教員

	昨年	今年	差
教員の話し方はわかりやすかった	94.2%	99.2%	5.0 pts
教員は授業の雰囲気作りに貢献していた	87.7%	95.0%	6.3 pts
教員のフィードバックはプランを改善する上で役に立った	94.4%	97.4%	3.0 pts
教員のフィードバックは自分なりのリーダーシップを考える上で役に立った	90.7%	94.5%	3.8 pts

SA

SAの話し方はわかりやすかった	95.7%	98.7%	3.0 pts
SAは授業の雰囲気作りに貢献していた	96.8%	98.9%	2.1 pts
SAのフィードバックはプランを改善する上で役に立った	91.5%	96.9%	5.4 pts
SAのフィードバックは自分なりのリーダーシップを考える上で役に立った	89.8%	95.0%	5.2 pts

データから見た「授業運営上」のポイント

- 授業のオンライン化でよく囁かれるウワサ -

授業への集中力が低下する 説



検証されず
(むしろ改善)

クラスの雰囲気がいマイチ 説



検証されず
(むしろ改善)

『オンラインだと学生の反応が掴みづらいよね…』で終わらせない

教員・SA側から積極的に受講生に対して関わる姿勢が重要

教員：クラス全体の雰囲気づくり（全体介入）

SA：受講生への個別フィードバック（個別介入）

続いて「教室外」の取り組みについて

教室内の取り組み

教室外の取り組み

オンライン授業による教育効果を高める「教室外」要因とは？

「教室外学習行動」を支援する3つのキーワード

『授業外学習（個人の自習）』 『グループワーク』 『メンター支援』

授業に関する取り組み（昨年比較で0.2以上の差があった上位8項目）

		2019	2020	差（2020-2019）
メンター	授業時間外にメンターに積極的に質問をした	3.38	4.01	0.62
グループワーク	私たちのチームワークは非常にうまくいった	3.99	4.42	0.43
授業外学習	過去に自分が提出した課題を見直した	3.49	3.79	0.30
グループワーク	授業時間外のグループワークに積極的に参加した	4.37	4.65	0.29
授業外学習	授業をきっかけに発展的な勉強をした	4.01	4.24	0.23
グループワーク	授業時間外のグループワークは生産的だった	3.93	4.16	0.23
グループワーク	授業中のグループワークは質の高いものだった	4.10	4.33	0.23
グループワーク	授業時間外のグループワークのために自分個人で準備した	4.15	4.38	0.22

1. 授業外学習 編

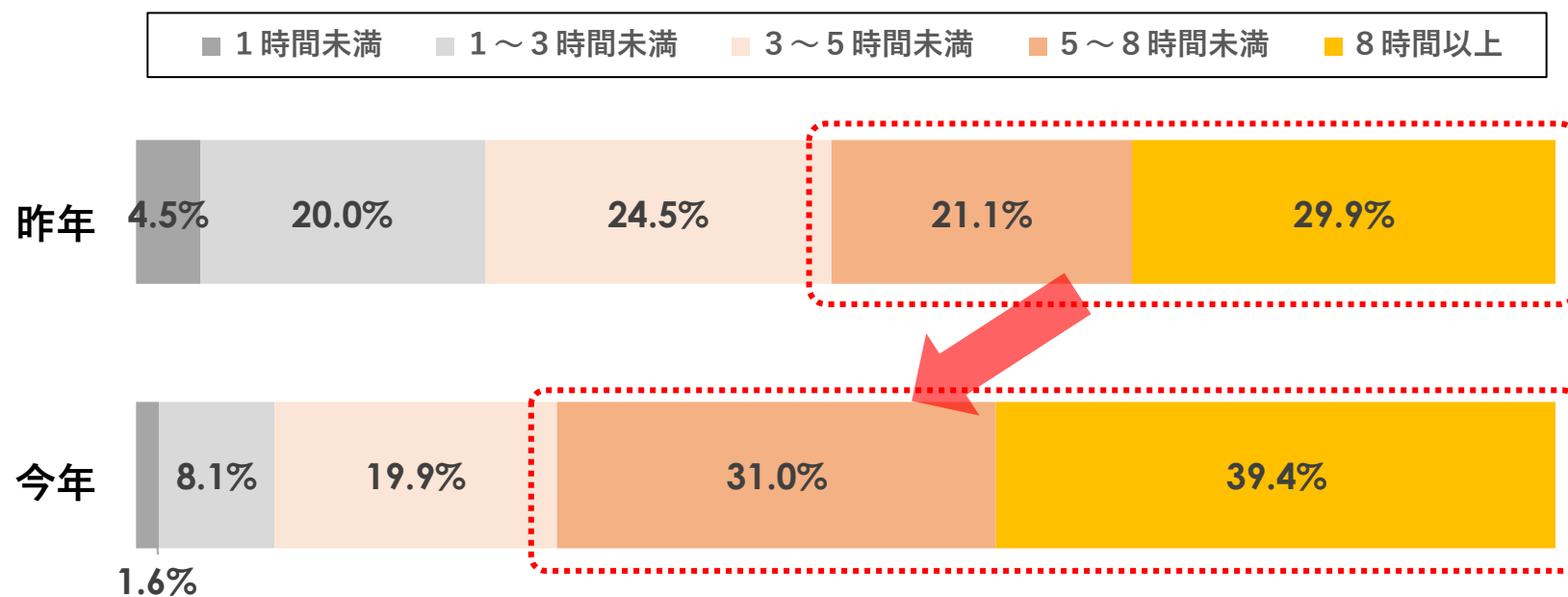
授業時間以外にも自発的に学習する受講生が大幅に増加！

授業時間以外での学習時間は、昨年に比べて**大幅増加**

「週5時間以上」割合は、51.0%→70.4%

(※授業課題のボリュームは例年より控えめ)

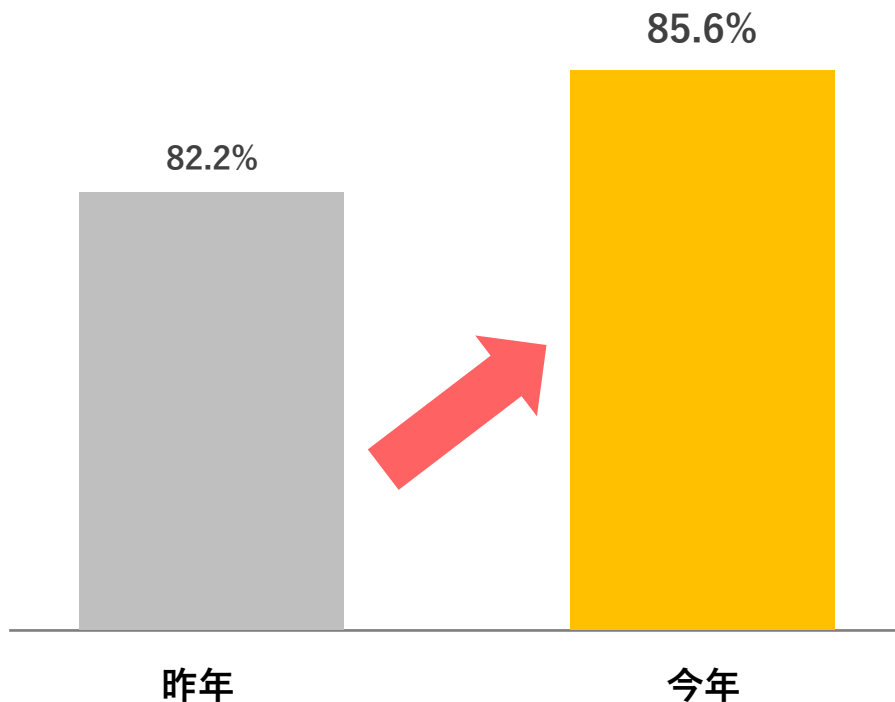
授業外学習時間（週あたり平均）



授業内容に対する学問的興味・関心度がアップ

授業に集中して参加することで、授業内容に対する学問的興味が増す傾向
「学問的興味をかきたてられた」と回答する割合が3.4ポイント増加

授業を通じて学問的興味をかきたてられた（あてはまる回答の割合）



授業時間以外に具体的にどんな学習をしている？

提出課題の見直しや授業内容に関連する発展的な学習を行う割合が
昨年比で**10ポイント以上アップ**

授業に関連する学習活動

	昨年	今年	差
--	----	----	---

復習	過去に自分が提出した課題を見直した	57.6%	73.2%	15.6
----	-------------------	-------	-------	------

復習	この授業で学んだことを、 ほかの授業でも思い出しながら理解を深めた	74.4%	81.9%	7.5
----	--------------------------------------	-------	-------	-----

応用学習	授業をきっかけに発展的な勉強をした	74.1%	85.6%	11.5
------	-------------------	-------	-------	------

応用学習	この授業で得た知識や経験をもとに、 今後さらに発展的な授業に取り組んでいきたい	89.6%	97.4%	7.8
------	--	-------	-------	-----

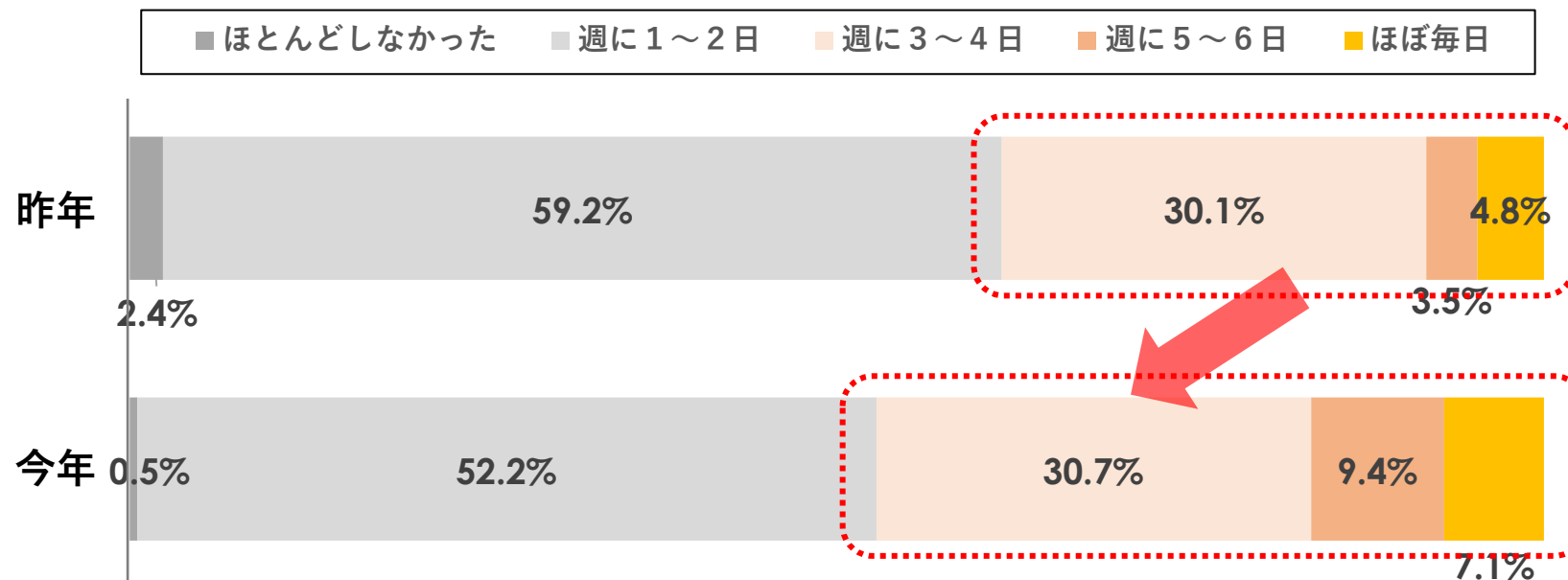
2. グループワーク 編

オンライン環境の方がグループワークを実施しやすい

グループワーク実施頻度は、昨年に比べて**増加**

「週3日以上実施」の割合は、38.4%→47.2%

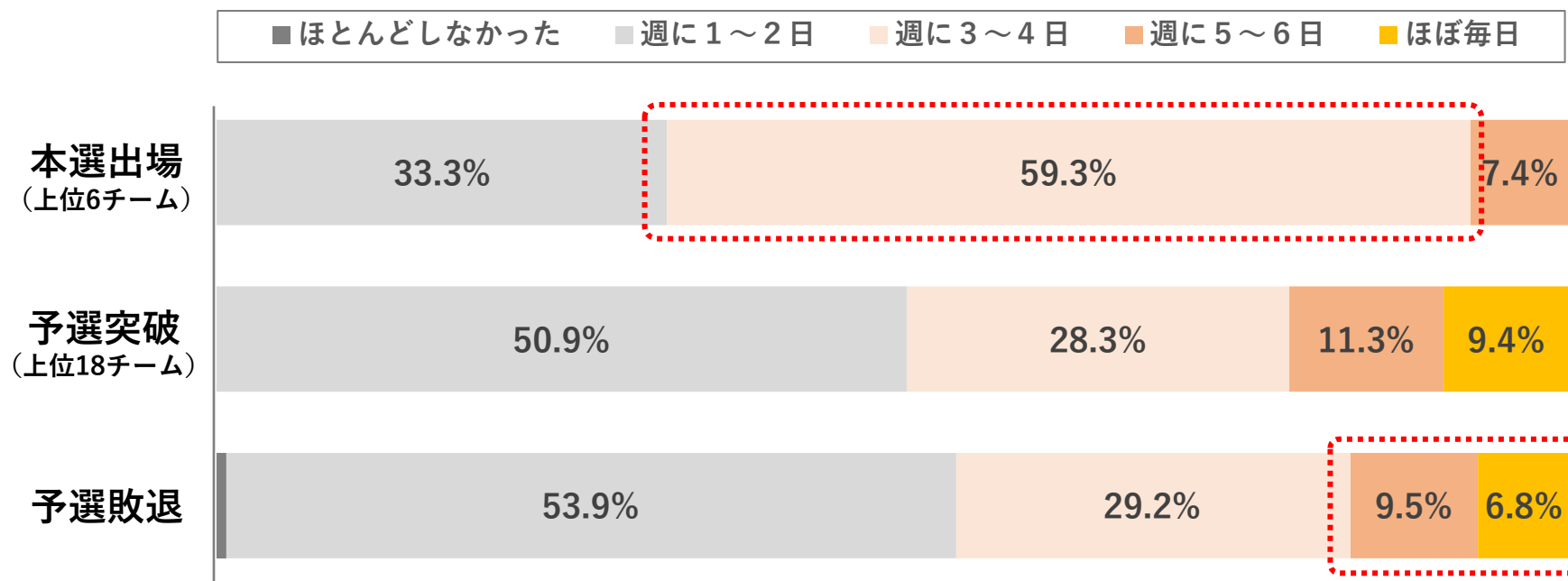
グループワーク実施頻度



高成績チームほどメリハリのあるグループワークを実施

優秀チーム（本選出場班）は「週3～4日」実施が最も多い
（「週5日以上」実施の割合は予選敗退チームの方が多い）

グループワーク実施頻度

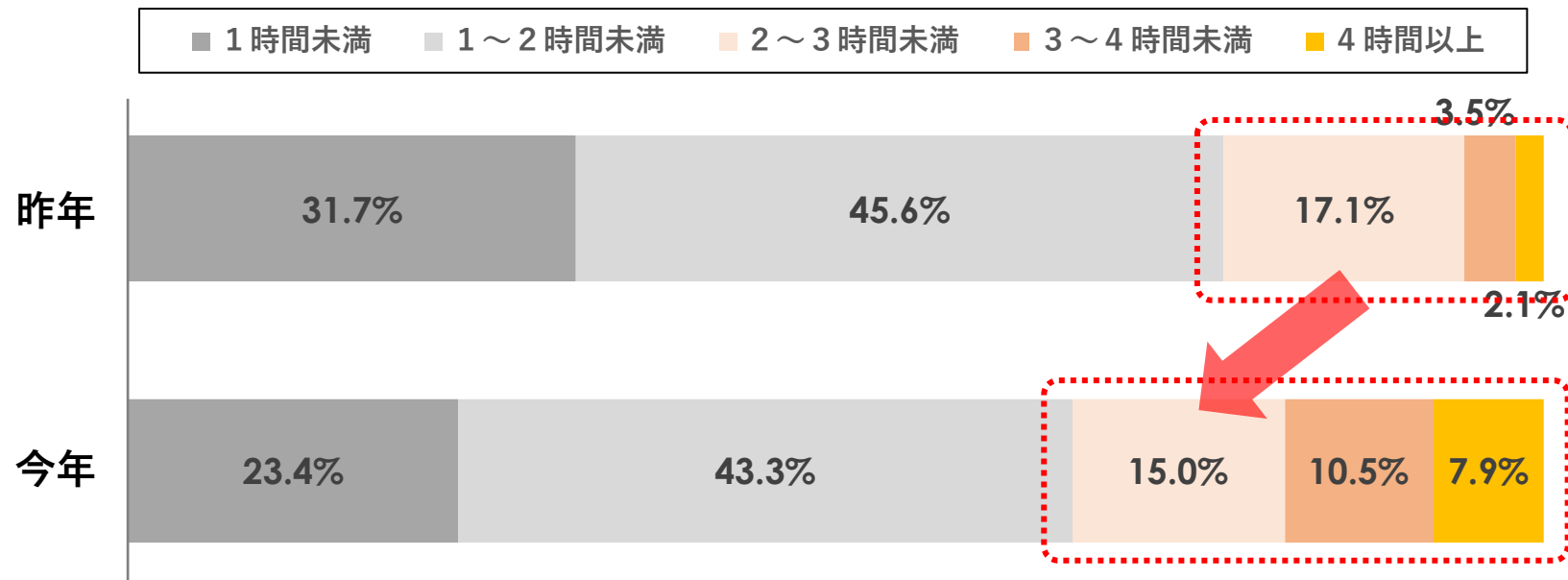


ダラダラワーク？

グループワーク前の事前準備に時間をかけている！

グループワーク 1 回あたり平均準備時間は、昨年に比べて**増加**
平均準備時間「2 時間以上」割合は、22.7%→33.4%

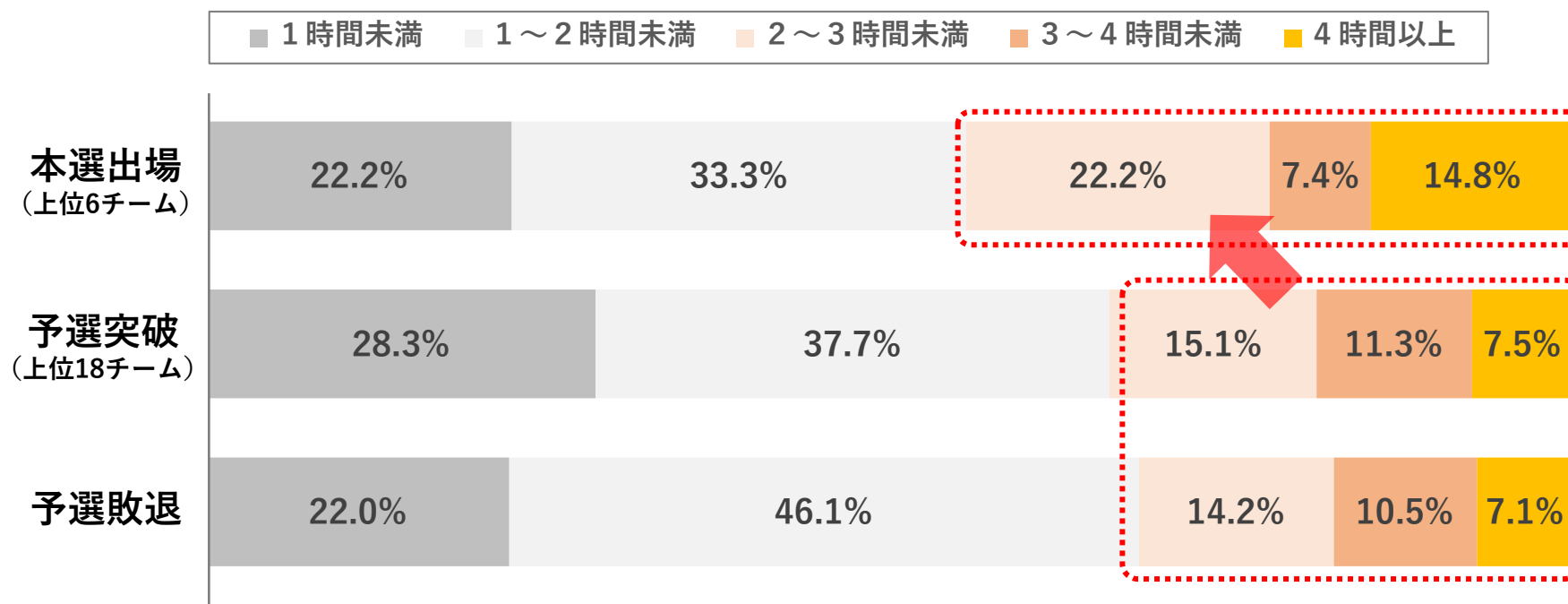
グループワーク 1 回あたり平均準備時間



高成績チームほど事前準備を入念に行っている

優秀チーム（本選出場班）ほど時間をかけて準備した上で
グループワークを実施している傾向

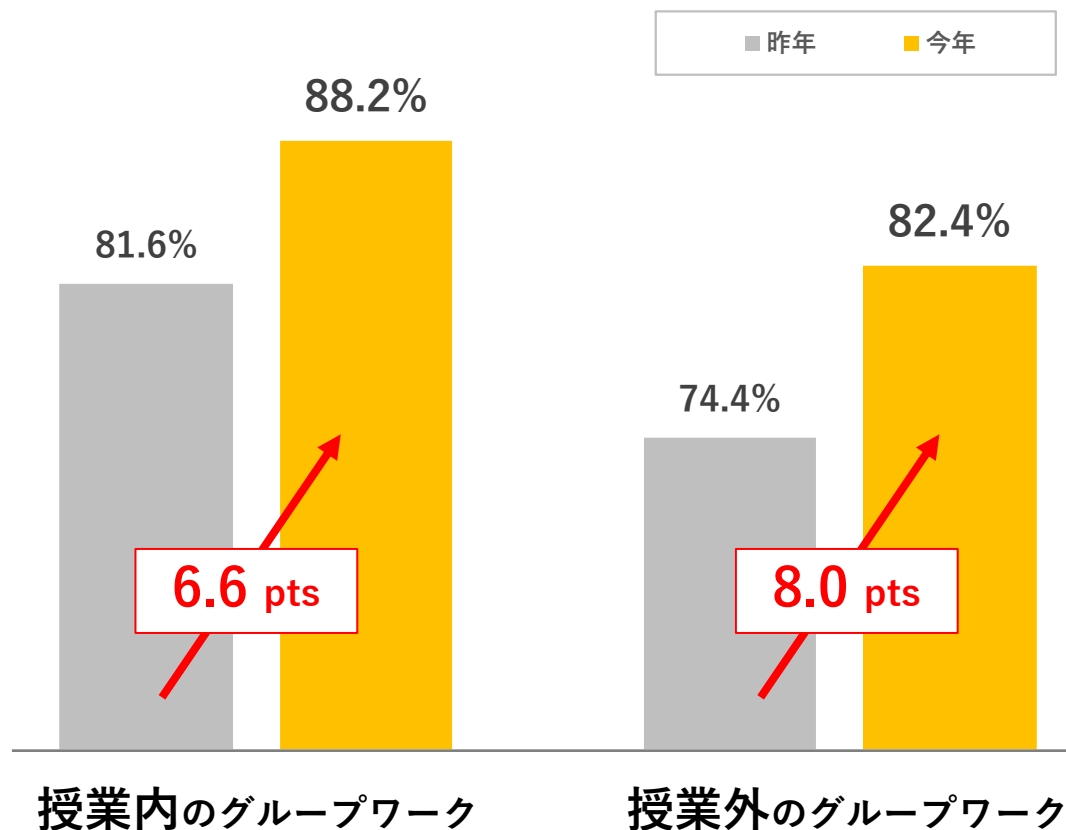
グループワーク 1 回あたり平均準備時間



受講生のグループワークに対する生産性“実感度”は？

昨年と比べて、
「グループワークの質が高く、生産的に行えた」と評価する割合が**増加**

グループワークに対する生産性実感（「あてはまる」「ややあてはまる」回答割合）

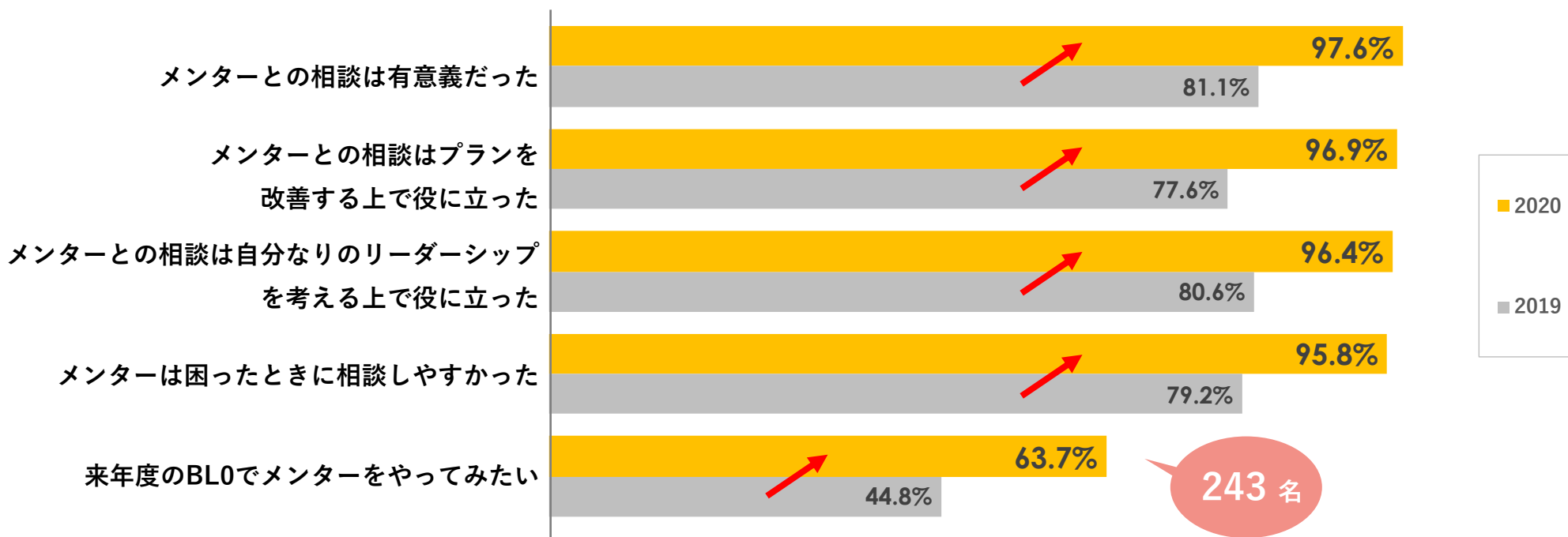


3. メンター支援 編

今年は特に「メンター支援」が効果を発揮

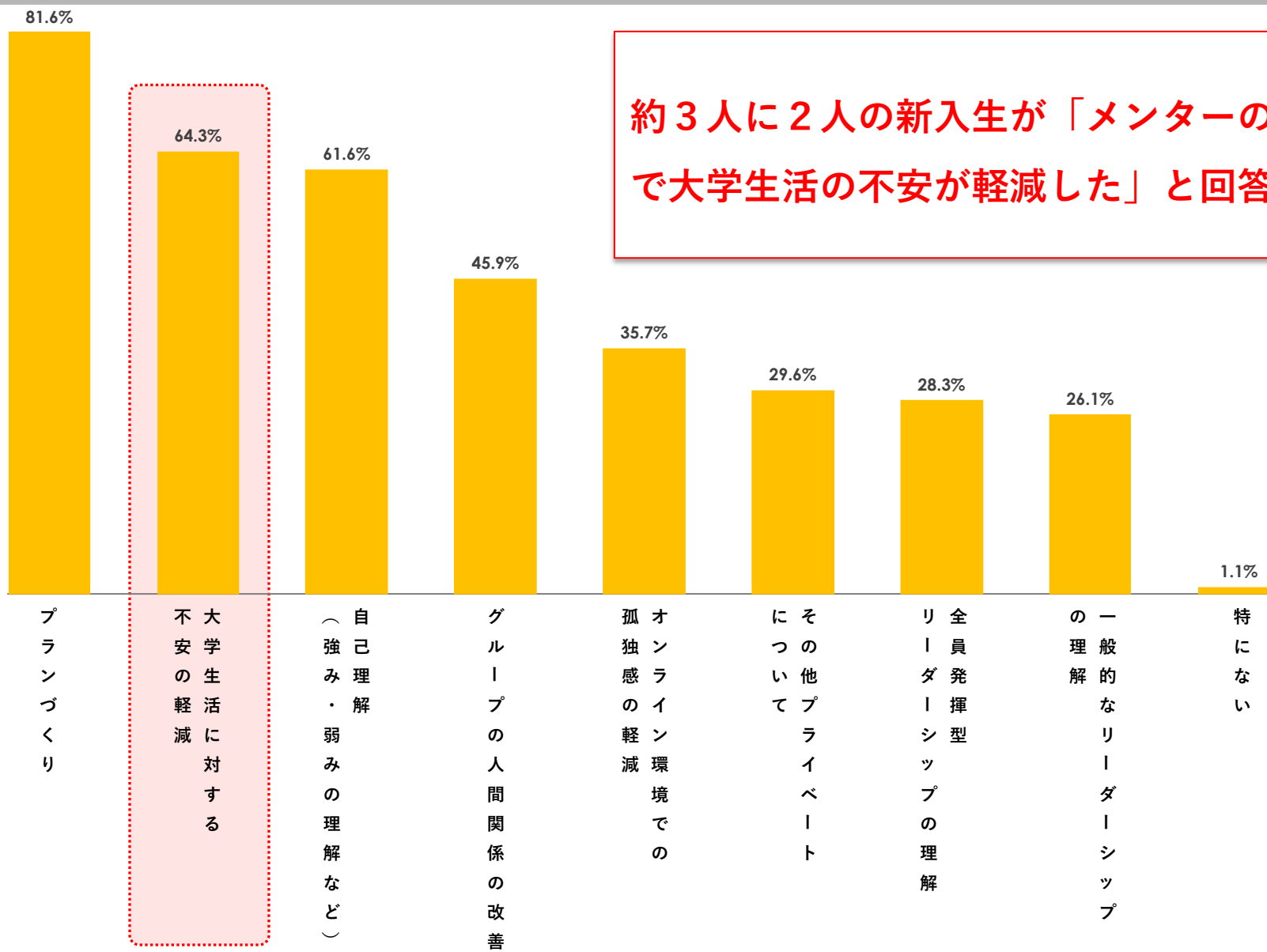
メンター支援に対する評価は昨年に比べて全体的に向上
9割以上の受講生がメンター支援による効果を実感

メンター支援に対する受講生の評価（あてはまる回答の割合）



メンターは授業支援だけでなく、大学生活の不安軽減にも寄与！

メンターが関わってくれたおかげで、あなた自身が助かったと思うのはどのような点か。「あてはまる」回答割合



約3人に2人の新入生が「メンターのおかげで大学生活の不安が軽減した」と回答

データから見た「教室外の学習行動」のポイント

授業外学習

オンライン化で生じる時間と授業内容への関心から
授業の復習と授業に関連した発展的学習を行なっている

グループ ワーク

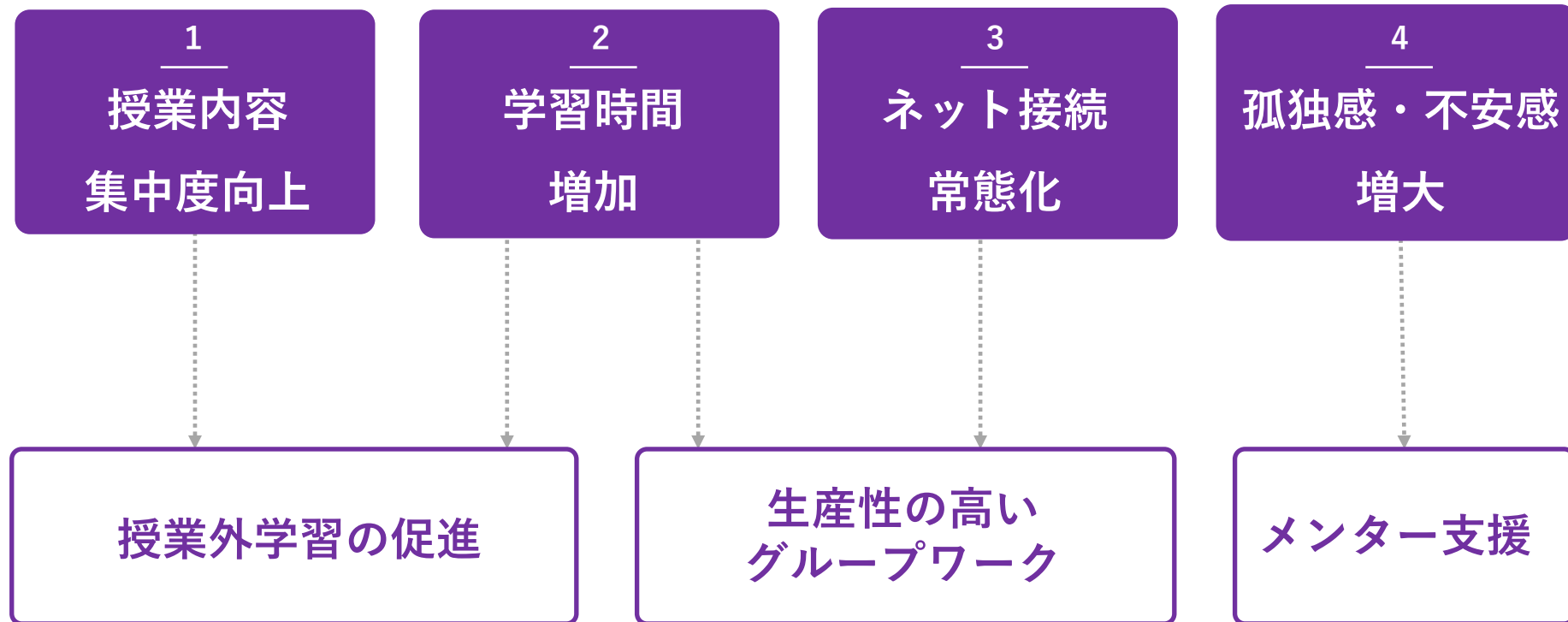
オンライン化で生じる時間と繋がりやすさを活かし
生産性の高いグループワークを実践している

メンター支援

オンライン化に伴う孤独感や学習不安を
メンターが個別にフォローし、不安軽減に努めている

データから見た「教室外の学習行動支援」のまとめ

オンラインシフトに伴う、受講生を取り巻く学習環境 4 つの変化



BLPにおける「教室外学習行動支援」のポイント

授業のオンライン化はいいことづくめ？

オンラインならではの難しさも…

オンラインで授業の雰囲気づくりに貢献できたと回答する割合は**ダウン**
特に大学授業の受講経験がない1年生に率先垂範を期待するのは困難。

運営陣（教員・SA・メンター）側からの積極的な関わりが重要

授業に関する取り組み（昨年比較で下回った項目）

	昨年	今年	差
授業の雰囲気作りに貢献した	4.19	3.94	-0.26
授業時間外に教員に積極的に質問をした	3.24	2.90	-0.34

[まとめ] オンライン授業の教育効果を高めるアプローチ

教室内だけでなく、教室外を含めた受講生の学習活動全般に対する支援が重要

教室内

教員・SAによる積極的な関わり

対話型授業

SAによる質の高いフィードバック

授業内容への関心度アップ

教室外

生産的な
グループワーク

個人による
授業外学習

プランへのフィードバック
チームビルディングのサポート

メンターによる
学習活動支援

自己理解（リーダーシップ）の促進
孤独感・大学生活不安をケア